

【矢巾町商工会】経営発達支援事業 評価シート

《評価基準》

- A: 目標を達成することができた(100%以上)
- B: 目標を概ね達成することができた(80~99%)
- C: 目標を半分程度しか達成することができなかった(30~79%)
- D: 目標をほとんど達成することができなかった(30%未満)
- E: 未実施(0%)

I. 経営発達支援事業の内容

事業	項目	29年度		実績	評価	30年度	31年度	32年度	33年度
		目標	実績						
1. 地域の経済動向調査【指針③】	(1) 行政との情報交換会議	4回	2回	総務、企画財政及び産業振興の3課と行政の取り組み、岩手医科大学移転総合計画及び駅前商業集積等の地域動向について情報収集及び共有を行った。	C	4回	4回	4回	4回
	(2) 金融機関との情報交換会	2回	3回	4行と地域内小規模事業者の動向(創業状況を含む)や空き店舗・土地等の利活用状況の情報収集及び共有を行った。	A	2回	2回	2回	2回
	(3) 矢巾町企業連絡会との連携による情報収集	1回 (部会3回)	1回 (部会1回)	企業連絡会の総会及び部会活動において、地域内動向について情報収集及び共有を行った。	B	1回 (部会3回)	1回 (部会3回)	1回 (部会3回)	1回 (部会3回)
	(4) 行政と連携した通行量及び空き店舗の各調査	2回	1回	区画整理事業後の中心市街地や駅西の通行量(継続実施)を調査し、今後の地域活性化のための基礎データを収集した。	C	2回	2回	2回	2回
2. 経営状況の分析【指針①】	(1) 経営分析の対象となる小規模事業者への巡回訪問による意向把握	200件	117件	前年度決算書の詳細説明時に現状把握とともに、各種補助金等の周知を行い、事業計画策定の意思を把握した。	C	200件	200件	200件	200件
	(2) ヒアリング等を活用した経営実態の把握・分析	200件	91件	上記項目時にヒアリングし、各事業所の経営実態を把握した。	C	200件	200件	200件	200件
	(3) 収集した情報による経営分析の実施及び活用	100件	91件	貸借対照表の必要性、簡易財務分析を行うとともに、資金調達を希望する事業者に対しては、売上・原価率・自己資本比率・返済力についての資料作成を行った。	C	100件	100件	100件	100件
	(4) 経営分析セミナーによる自己分析能力の向上支援	1回	0回	ネットde記帳利用者(代行及び自計の両者)等を対象にセミナーを開催する計画を、今回はできなかったが、個別対応としての支援は行った。(12件)	E	1回	1回	1回	1回
3. 事業計画策定支援【指針②】	(1) 巡回・窓口相談時の事業計画策定意識づけ	100件	117件	前年度決算書の詳細説明時に現状把握とともに、各種補助金等の周知を行い、事業計画策定の意思を把握した。	A	100件	120件	120件	150件
	(2) 経営力向上・経営計画策定セミナー	2回 (支援数30件)	4回 (支援数28件)	専門家を活用して集団1回、個別3回のセミナーを開催し、経営計画の策定を支援した。	A	2回 (30件)	2回 (50件)	2回 (50件)	2回 (70件)
	(3) 創業支援セミナー	1回	1回	役場(企画財政課)と連携して創業者及び創業希望者の支援を行った。	A	1回	1回	1回	1回
	(4) 事業継承・後継者育成個別相談	4回	1回	個別相談会の開催周知はしなかったが、巡回・窓口相談において支援した。(支援数2事業所)	D	4回	4回	4回	4回
	(5) 財務諸表の理解度向上セミナー	1回	0回	ネットde記帳利用者(代行及び自計の両者)等を対象にセミナーを開催する計画を、今回はできなかったが、個別対応としての支援は行った。(12件)	D	1回	1回	1回	1回
	(6) 事業マッチング機会の場	2回	1回	ビジネス連携交流会を開催(24事業所参加)し、事業マッチングの場を提供した。マッチングには至っていないが、事業者間の人的ネットワークを形成できた。	C	2回	2回	2回	2回
4. 事業計画策定後の実施支援【指針②】	(1) 事業計画策定フォロー及びフォロー回数	20件 (80回)	28件 (114回)	事業計画策定後の巡回・窓口での支援を行った。	A	30件 (120回)	50件 (200回)	50件 (200回)	50件 (200回)
				①フォロー方法としては、主に巡回(頻度 約3ヶ月に1回)を中心に行い、案件によっては専門家を活用(10回)したり、日本政策金融公庫や地元金融機関と連携するなど、的確な支援を行った。 ②また、創業者に対しては、創業当初のコスト削減のための家賃助成制度を周知したが、対象となる案件がなく、利用者は0件であった。 ③事業マッチング実現に向けた事業計画書の見直し案件は、前項でも明記したとおり、マッチングまでには至っていなかったことから、作成実績は0件となった。					
	(2) 経営革新認定事業者数	3件	0件	経営革新認定は0件であったが、認定に向けて支援した件数は2件であった。	D	3件	6件	6件	6件
	(3) 持続化補助金等申請支援者数	20件	11件	経営計画策定事業者数の内、販路拡大に向けた案件に対して支援したが、当初目標の20件には至らなかった。	D	20件	30件	30件	30件
	(4) 小規模事業者経営発達融資制度申請者数	1件	0件	周知し、利用を促したが、利用者は0であった。	D	1件	1件	1件	1件
5. 需要動向調査【指針③】	(1) 矢幅駅前地区の商業集積に小店予定小規模事業者に対する需要動向調査	1回	0回	矢幅駅前地区(町有地)に物販系商業集積計画を進めていたが、周辺環境の変化や町複合施設(やはばーく)の駐車場問題等の関係で土地利用が保留となったことにより、29年度は調査を行わなかった。	E	-	1回	-	1回
	(2) 山ぶどうの加工品などに関する需要の拡大に係る調査	9回 (5件)	10回 (8件)	特産の一つである山ぶどうを活用した商品のPRのための場の提供は、当初計画を上回ることはできたが、調査(アンケート)までには至らず、調査サンプル数は0であった。	C	10回 (5件 300~500)	12回 (5件 300~500)	12回 (5件 300~500)	15回 (5件 300~500)
	(3) 外部機関から入手する情報	6回 (50件)	6回 (97件)	部会やまらづくり会社、大家業を対象としたセミナー等において、POSデータ等の外部データ入手し、情報提供をした。	A	6回 (50件)	6回 (50件)	6回 (50件)	6回 (50件)
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業【指針④】	(1) 全国連SHIFTの活用	20件 (2件)	-	SHIFTの活用周知は、商工会ニュース(毎月1回発行)等で行ったが活用実績までには至らなかったところから、受注実績も0に終わった。	E	30件 (3件)	50件 (5件)	50件 (5件)	50件 (5件)
	(2) 地元農産物を活用した特産品の普及拡大	-	-	春まつりや秋まつりの場で町と連携して普及拡大に努めた。料理に関しては、町食改協及び町内飲食店(2店)の協力を得てサービス提供ができたが、販売に関しては新たな販売店を増加することはできなかった。	D	-	-	-	-
	(3) 既存・新たな特産品普及拡大	-	-	既存商品の販路拡大を目的に町内・盛岡市の各イベントに参加するとともに、首都圏への販路拡大と新商品開発のヒントを得るために「まるごとニッポン(浅草)」で5事業者が参加して販売会を開催した。併せてアンケート収集(サンプル数300枚)も行い、今後の商品開発やマーケティング把握につながったが、商品開発には至っていない。	D	1回 (10件)	2回 (20件)	2回 (20件)	2回 (20件)

【矢巾町商工会】経営発達支援事業 評価シート

《評価基準》
 A: 目標を達成することができた(100%以上)
 B: 目標を概ね達成することができた(80~99%)
 C: 目標を半分程度しか達成することができなかった(30~79%)
 D: 目標をほとんど達成することができなかった(30%未満)
 E: 未実施(0%)

II. 地域経済の活性化に資する取組

事業	項目	29年度		実績	評価	30年度	31年度	32年度	33年度
		目標	実績						
1. 地域経済活性化事業	(1) イベントの連携実施	4回	5回	役場及び(協)盛岡卸センターと連携して開催し、地域貢献はもとより、小規模事業者に対して販売機会を提供することができた。特に特産品を取り扱う矢巾特産品協会及び矢巾観光開発(株)(第三セクター)の販売機会を支援することができた。 矢幅駅前活性化を図るために旧駅前商店会会員事業所及び町の複合施設やはば一くと連携するとともに、駅周辺小規模事業者も巻き込んでイベントを開催した。ただし、旧商店会会員と計画したイベントは、悪天候のために中止となった。 プレミアム商品券発行事業は、町からの補助金を活用して行う計画であったが、町の財政の関係から補助金が交付されなかったことにより実施できなかった。	A	1回	1回	1回	1回
	(2) 地域賑わい創出事業	3回	2回		C	3回	4回	4回	4回
	(3) 矢巾町プレミアム商品券発行事業	1回	0回		E	1回	1回	1回	1回

III. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

事業	項目	29年度		実績	評価	30年度	31年度	32年度	33年度
		目標	実績						
1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換	(1) 商工団体・商工会議所との情報交換	2回	2回	小規模事業経営改善貸付協議会の場を活用して、他地域の既存小規模事業者の動向、創業・事業承継及び指導案件事例についての情報収集・共有を行った。	A	2回	2回	2回	2回
	(2) 関係支援機関への定期的訪問	4回	2回	いわて産業振興センター(1回)、雇開協(1回)を訪問し、助成金等のノウハウについて情報共有して小規模事業者支援に活用した。	C	2回	2回	2回	2回
	(3) 金融機関との情報交換	12回(公庫) 2回(銀行)	12回(公庫) 3回(銀行)	公庫による金融特別相談会(毎月第3水曜日)及び地元4行との情報交換会の場で小規模事業者の現状の情報収集や、資金調達に関するノウハウ等について情報共有し、小規模事業者の支援に役立てた。	A	12回(公庫) 2回(銀行)	12回(公庫) 2回(銀行)	12回(公庫) 2回(銀行)	12回(公庫) 2回(銀行)
	(4) まちづくり会社との情報交換及び連携	4回	4回	まちづくり会社であるヤノバックス(株)と矢幅駅前活性化についての情報交換(3回)及び複合施設やはば一くの事業を連携して開催(2回)することで、中心市街地の活性化に努めた。	A	4回	4回	4回	4回
2. 経営指導員等の資質向上等	(1) 岩手県商工会連合会研修	-	-	全職員を対象に、岩手県商工会連合会の職員向けセミナー、中小企業基盤整備機構の各種セミナー等の参加を通じて資質向上に取り組んだ。	A	-	-	-	-
	(2) 職員会議	12回	10回	毎月1回(月初)、職員会議を開催し、個々が抱える課題の共有と解決策の検討を行い、事業遂行の円滑化を図った。	B	12回	12回	12回	12回
	(3) OJTの強化による能力向上	随時	随時	全職員に新たな業務を経験させ、オールラウンドプレーヤーに育成するために事務分掌の見直しを図るとともに、新たな業務や高度な案件については、指導員が中心となって支援して能力向上の実現に努めた。	C	随時	随時	随時	随時
	(2) 専門家派遣同行による能力向上	20回	20回	高度な案件に対して派遣した専門家に同行して、新たな知識の習得や指導手法を学び能力向上に努めた。	B	20回	20回	20回	20回
3. 事業の評価及び見直しをするための仕組み	(1) 各種事業(セミナー及び研修会等)におけるアンケートの実施による事業検証	随時	7回	商工会の発達計画担当者により平成29年度の達成状況の確認を行うとともに、事務局や三役会において、進捗状況の確認及び事業内容の検証を行った。	B	随時	随時	随時	随時
	(2) 事務局事業評価会議	2回	1回		C	2回	2回	2回	2回
	(3) 矢巾町商工会あり方検討委員会での事業実施状況・見直しの検証	1回	1回		A	1回	1回	1回	1回
	(4) 本会三役会においての評価・見直しの検証	1回	2回		A	2回	2回	2回	2回
	(5) 会員への報告	-	-	次年度(平成30年)の総会終了後、会員等に報告する。(H30年7月発行の会報で周知済み)	-	1回	1回	1回	1回
	(6) 事業結果の公表	-	-		-	随時	随時	随時	随時

総合評価
C